

5. 宮城県てんかん診療地域連携事業

「東北大学病院てんかんセンターにおける活動の概要」

東北大学病院てんかんセンター 中里信和

【まとめ】

東北大学病院てんかんセンターでは、例年に引き続いて、診療・研究・教育という大学病院の活動の3本の目標のもと、多診療科連携、多職種連携、さらには総合大学としての包括的活動を展開している。施設内でのベストの診療を求めるだけでなく、関連他施設との連携を深めて、てんかん診療を推進する人材育成が究極のゴールである。

2022年度は日本てんかん学会学術集会を主催する機会を得て、開催前日と開催前日に公開市民講座を実施するなど、昨年以上に顕著な成果が得られた。

なお「てんかんセンター」は院内での評価もきわめて高く、2022年度の東北大学病院長賞の受賞が決定している（2023年3月に受賞式）。

目次

1. 2022年度てんかん診療医療連携拠点協議会委員名簿
2. 2022年度の代表的活動
3. 第55回日本てんかん学会学術集会の開催
4. 市民公開講座「知って安心、てんかん」の開催
5. アート企画「わたしがわたしでいられるところ」の開催
6. クラウドファンディング企画“オンライン市民公開講座
「知って安心、てんかん」を開催したい！”
7. 宮城パープルデーイベントの実施
8. 宮城県における精神疾患自立支援制度における
「2つの薬局利用」の実施
9. 発表論文（2022年以降）

【1. 2022年度てんかん診療医療連携拠点協議会委員名簿】

	氏名	所属先
1	中里 信和	東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野 教授 (日本てんかん学会専門医・指導医, 日本脳神経外科学会専門医)
2	富永 悌二	東北大学病院長 東北大学大学院医学系研究科神経外科学分野 教授 (日本脳神経外科学会専門医)
3	青木 正志	東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 教授 (日本神経学会専門医)

4	植松 貢	東北大学大学院医学系研究科小児病態学分野 准教授（日本てんかん学会専門医・指導医，日本小児科学会専門医・指導医、日本小児神経学会専門医）
5	富田 博秋	東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野 教授
6	高瀬 圭	東北大学大学院医学系研究科放射線診断学分野 教授 （日本医学放射線学会専門医）
7	三木 俊	東北大学病院生理検査センター 診療技術部生理検査部門長
8	鈴木 由美	東北大学病院 看護部長
9	神 一敬	東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野 准教授 （日本てんかん学会専門医・指導医，日本神経学会専門医）
10	小川 舞美	東北大学病院てんかん科（公認心理師）
11	前田 光男	東北大学病院地域医療連携課 課長
12	織田 佳葉子	東北大学病院地域医療連携センター（社会福祉士）
13	本庄谷 奈央	東北大学病院地域医療連携センター てんかん診療支援コーディネーター （精神保健福祉士）
14	上埜 高志	東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科 教授 （精神保健指定医，日本精神神経学会専門医・指導医）
15	萩野谷 和裕	宮城県立こども病院 副院長 （日本てんかん学会専門医・指導医，日本小児神経学会専門医）
16	北村 太郎	仙台市立病院小児科 医長 （日本小児神経学会専門医，日本小児科学会専門医・指導医）
17	角藤 芳久	宮城県立精神医療センター 院長（精神保健指定医）
18	橋本 崇	宮城県保健福祉部精神保健推進室 室長
19	菅原 美帆子	宮城県保健福祉部精神保健推進室 技術主幹（精神保健推進班長）
20	小原 聡子	宮城県精神保健福祉センター 所長
21	遠田 礼子	仙台市保健所若林支所 障害高齢課 地域支援係長
22	萩原 せつ子	日本てんかん協会宮城県支部 事務局長（てんかん患者の家族）

【2. 2022年度の代表的活動】

	開催予定日	名称	研修内容（★ウェブ併用で全国から参加）
第1回	令和4年4月20日	第133回東北大学てんかん症例検討会	★難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会.
第2回	令和4年5月25日	第134回東北大学てんかん症例検討会	★難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会.
第3回	令和4年5月25日	てんかん包括医療東北研究会	★てんかん診療に関わる東北地方の医師および医療関係者を対象として、岩手医科大学小児科学講座教授 赤坂真奈美 先生の特別講演.
第4回	令和4年6月15日	第135回東北大学てんかん症例検討会	★難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会.
第5回	令和4年6月15日	Epilepsy Lectures	★東北大学病院から出版された過去のとんかん関連研究論文の解説.
第6回	令和4年7月9日	東北てんかんフォーラム	★てんかん診療に関わる東北地方の医師および医療関係者を対象として、愛知医科大学精神科の兼本浩祐教授による「てんかんと抑うつ」に関する講演.
第7回	令和4年7月27日	第136回東北大学てんかん症例検討会	★難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会.
第8回	令和4年8月17日	てんかん診療知っトクセミナー東北	★東北地方のとんかん診療に関わる医師を対象とした「外科治療」及び「精神症状への対応」をトピックとする講演会.
第9回	令和4年8月24日	第137回東北大学てんかん症例検討会	★難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会.
第10回	令和4年9月14日	第138回東北大学てんかん症例検討会	★難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会.
第11回	令和4年9月14日	Epilepsy Lectures	★東北大学病院から出版された過去のとんかん関連研究論文の解説.
第12回	令和4年9月19日	市民公開講座「知って安心、てんかん」（主催：東北大学病院&第55回日本てんかん学会）	★日本てんかん学会学術総会関連イベントとして、仙台国際センターを終日使い、4部構成での市民公開講座、文化講演会、座談会等を実施した.

第13回	令和4年9月19日～22日	てんかん啓発アートイベント	★日本てんかん学会学術総会関連イベントとして、仙台国際センターにおいて、当事者や県内の障害者団体、学会参加の医療者らが参加してのオブジェの作成を行った。
第14回	令和4年9月20～22日	日本てんかん学会	★日本てんかん学会の年次学術総会。大会長は中里信和てんかん科教授、副大会長に富永悌二病院長、青木正志脳神経内科教授、富田博秋神経精神科教授が就任。2000名を越える過去最大規模での大会となった。
第15回	令和4年10月19日	第139回東北大学てんかん症例検討会	★難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。
第16回	令和4年11月30日	第140回東北大学てんかん症例検討会	★難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。
第17回	令和4年11月30日	てんかん包括医療東北研究会	★てんかん診療に関わる東北地方の医師および医療関係者を対象として、大阪大学脳神経外科の Khoo Hui Ming 先生を招いての講演会。
第18回	令和4年12月10日	仙台'89ERS冠試合(カメイアリーナ仙台)	試合開始15:00。試合の前後やハーフタイムにおけるパープルデー活動の紹介や、開始前のティップオフ・セレモニーなど。
第19回	令和4年12月14日	第141回東北大学てんかん症例検討会	★難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。
第20回	令和4年12月14日	Epilepsy Lectures	★東北大学病院から出版された過去のてんかん関連研究論文の解説。
第21回	令和5年1月18日	第142回東北大学てんかん症例検討会	★難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。
第22回	令和5年1月18頃	東北てんかんフォーラム	★てんかん診療に関わる東北地方の医師および医療関係者を対象として、東北大学小児病態学分野教授に着任した菊池敦生先生の講演。
第23回	令和5年2月15日	第143回東北大学てんかん症例検討会	★難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。
第24回	令和5年2月22日	てんかん重積状態の診療(みやぎ発Web講演会)	★てんかん重積状態の診療に関する話題を大友智先生(みやぎ県南中核病院脳神経外科)と加藤量広先生(同脳神経内科)に講演いただく。対象は宮城県中心だがウェブで全国配信の予定。

第25回	令和5年3月8日	第144回東北大学てんかん症例検討会	★難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。今回よりインドネシアのてんかん医療関係者にも同時通訳で配信予定。
第26回	令和5年3月8日	Epilepsy Lectures	★東北大学病院から出版された過去のてんかん関連研究論文を小川舞美先生（東北大学病院てんかん科助教・公認心理師）が紹介。
第27回	令和5年3月26日	てんかん啓発パープルデー宮城	3月26日にむけての約2週間を利用し、宮城県内において、てんかん啓発を目的としたラジオ放送。3月23日には中里センター長が生出演の予定。

【3. 第55回日本てんかん学会学術集会の開催】



会期 2022年9月20日(火)～22日(木)

会場 仙台国際センター

会長 中里 信和

東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野 教授

副会長 富永 悌二

東北大学大学院医学系研究科神経外科学分野 教授

青木 正志

東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 教授

富田 博秋

東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野 教授

大会事務局

東北大学大学院医学系研究科 てんかん学分野

事務局長：神一敬 | 東北大学大学院医学系研究科 てんかん学分野 准教授

下：閉会式直後のスタッフ集合写真



【4. 市民公開講座「知って安心、てんかん」の開催】

第55回日本てんかん学会学術集会の前日、関連事業として市民公開講座を開催した。

日時：2022年9月19日（月・祝）10:00～17:00

会場：仙台国際センター会議棟2階 「桜」

参加者：オンサイト100名、ライブ配信350名

第一部：てんかん基礎講座 10:00-12:00

座長：中里信和（東北大学病院てんかんセンター センター長）

「てんかんと運転免許」 神一敬（同てんかん科 准教授）
「てんかんと差別」 小川舞美（同てんかん科 公認心理師）
「てんかんと学校」 榎松真（同小児科 准教授）
「てんかんと外科治療」 大沢伸一郎（同脳神経外科 助教）

ビデオ応援メッセージ
東北楽天イーグルス（野球）
ベガルタ仙台（サッカー）
仙台99ERS（バスケットボール）
井高木大樹（相撲）

中里信和 神一敬 小川舞美 榎松真 大沢伸一郎

第二部：てんかんとともに 13:30-14:50

座長：藤川真由（東北大学病院てんかん科 助教）

「病気だって友だち」 加納聖希（調觀看護師）
「てんかんと就労」 藤川真由

加納聖希 藤川真由

第三部：YES-Japan 企画 15:00-16:00
パネルディスカッション
テーマ：「てんかんとコロナ禍」

座長：池谷直樹（横浜市立大学医学部・医学研究科脳神経外科学教室 助教）

ファシリテーター：
黒田直生人（東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野、Wayne State University）
久保田隆文（東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野、国立病院機構仙台医療センター）

池谷直樹 黒田直生人 久保田隆文

第四部：文化講演 16:00-17:00

座長：青木正志（東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 教授）

大丸拓郎（アメリカ航空宇宙局 NASA ジェット推進研究所）
若手医療者とのQ&Aセッション

大丸拓郎 青木正志

【5. アート企画「わたしがわたしでいられるところ」の開催】

同じく第55回日本てんかん学会学術集会の前日から期間中を通して、関連事業としてアート企画「わたしがわたしでいられるところ」を開催した。

日時：2022年9月19日（月・祝）～22日（木）

10：00～17：30（最終日は～12：00）

会場：仙台国際センター会議棟2階 展示・レセプションホール 桜

参加者：87名+医療者多数+オンライン参加

資料：当日配布したパンフレット

資料：読売新聞（9月21日付け）への掲載



【6. クラウドファンディング企画“オンライン市民公開講座「知って安心、てんかん」を開催したい！】

第55回日本てんかん学会学術集会市民公開講座「知って安心、てんかん」のライブ配信とオンデマンド配信のために、クラウドファンディングを実施した。

目標金額：900,000円

募集期間：2022年8月8日～9月5日

寄付総額：1,220,000円（寄付者：106人）

寄付金控除型 #社会にいいこと #医療・福祉

オンライン市民公開講座「知って安心,てんかん」を開催したい!

東北大学病院



寄付総額
1,220,000円 目標金額 900,000円

寄付者 募集終了日
106人 2022年9月5日

フォローする

プロジェクトは成立しました!

シェア ツイート LINEで送る noteで書く

プロジェクト概要 **新着情報** 4 応援コメント 106

2022年10月05日 09:39

編集する 削除する

市民公開講座のオンデマンド配信を開始しました

シェア ツイート LINEで送る noteで書く

第55回日本てんかん学会学術集会市民公開講座のオンライン配信への応援をいただき、誠にありがとうございました。

無事に第55回日本てんかん学会学術集会(9/19-22)が閉幕しました。市民公開講座の参加者数は現在集計中ですが、皆様のお力添えのおかげで実施することができましたオンライン配信の視聴者は350名を超えた模様です。

さらに、本日より期間限定でオンデマンド配信も開始いたしました。こちらはネクストゴールの達成により実現したものですので、改めて皆様に御礼申し上げます。ぜひ下記URLにアクセスしていただき、多くの皆様にご視聴いただければ幸いです。

■第55回日本てんかん学会学術集会市民公開講座のオンデマンド配信
https://www.c-linkage.co.jp/jes55/public_lecture.html

今後てんかんの正しい知識の普及啓発のために、私たちも一丸となって取り組んでいきますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

ギフト

ギフトを絞り込む

5,000円 + システム利用料

6000円
寄付コース

5000円 寄付コース

・お礼のメール
・寄付領収証明書
・匿名名義寄付金控除申請書(ご希望の場合)

成果：第55回日本てんかん学会学術集会市民公開講座「知って安心, てんかん」のライブ配信とオンデマンド配信

【7. 宮城パープルデーイベントの実施】

てんかん啓発のパープルデーは3月26日であり、2015年より関連イベントを実施してきたものの、年度末の時期であるため今年度は12月10日に早めて実施した。具体的には、プロバスケットボールリーグ仙台89ERSのホームゲームを、冠試合として開催(共催)した。

≡ 世界に広がる「てんかん」啓発キャンペーン ≡

PURPLE DAY

3月26日はパープルデー

12月10日(土) 仙台89ERSホームゲーム時に
宮城パープルデー「知って安心、てんかん」イベント開催!

12月10日(土)は
紫色の物を身に付けて
応援に行こう!!

当日は会場で
オリジナル缶バッジ
プレゼント!

※数に限りがございます。無くなり次第終了となります。

日時 2022年12月10日(土)
開場 13:00 試合開始 15:05

会場 カメイアリーナ仙台(仙台市体育館)

対戦相手 大阪エヴェッサ

チケット 特別価格 大人:無料 / こども:無料
対象席種 2階スタンド席
お申込方法 右側の二次元コードからお申し込みください

備考 対象席種が定員に達した場合は、ご優待価格でお引換できない場合がございますので、お早めにご購入ください



※観戦チケットの
お申込はこちらから
観戦チケットの購入には
会員登録が必要です(観戦無料)

チケット
問い合わせ

株式会社仙台89ERS
TEL: 022-281-8562(平日10:00~18:00/不定休)
MAIL: info@89ers.jp



共催: 東北大学病院、宮城県、宮城県受託事業受託者: 東北大学病院てんかんセンター
後援: 日本てんかん学会、日本てんかん協会宮城県支部、株式会社エフエム仙台

(以下、東北大学病院ホームページからの関連記事の抜粋)

仙台のプロバスケットボールチーム仙台 89ERS は、てんかんへの理解増進と患者さんやご家族を支援する啓発活動への賛同を表明し、てんかん啓発の日であるパープルデーを支援していただいています。



今回、特別企画として、ゲーム前のティップオフセレモニーに富永悌二病院長が参加し、渡辺翔太選手にボールを手渡し、ゲームがスタートしました。

会場では、てんかん啓発動画が放映されたほか、パープルデーの説明が記載されたオリジナルチャートが来場者に配布され、ハーフタイムでは、イエローとパープルのオリジナルチャートを曲に合わせて掲げました。



特設ブースでは宮城パープルデーオリジナル缶バッジやパンフレットなどを配布しました。試合終了後には、仙台 89ERS の選手、宮城パープルデーと当院のスタッフが記念撮影をして、当院冠試合「知って安心、てんかん」宮城パープルデーは終了しました。ご参加いただきました皆さまありがとうございました。



【8. 宮城県における精神疾患自立支援制度における「2つの薬局利用」の実施】

自立支援制度では利用できる薬局は1ヶ所という原則があったが、昨今の薬剤不足に対応すべく、宮城県においては2つの薬局が特例として認められるようになった。これは東北大学病院てんかん診療連携協議会の席上、患者代表からの発言を宮城県の担当者が聞き、問題の解決にあたったものである。本事業の有用性が顕著にあらわれたと評価できる。関連する新聞記事を掲載する。

医薬品の供給不足が長期化し、抗てんかん薬の一部が手に入りにくくなっているため、宮城県と仙台市が今月、精神疾患を対象とした「目次支援医療制度」の運用を改めた。患者が医療費の軽減措置を受けられる薬局はかかりつけの1カ所だけだったが、複数の登録を可能にした。(報道部・東野悠)

Ⅲ 〇面に関連記事

シエネリック(医薬品 後発薬)などの不足に対応した制度の運用見直しは全面的に珍しいという。患者団体は「不安解消の1歩」と受け止めつつ、「一日も早い供給の安定化を願う」。

通院医療費の自己負担を原則1割に軽減する同制度は、登録した薬局1カ所を使うルール。

医療費軽減「1カ所のみ」改正

登録外の薬局を利用すれば原則3割負担となるため、登録した薬局に在庫がなければ待つしかない状況が続いていた。

新たな運用では、患者がかかりつけ以外で薬を買わせるを得ない場合、薬局を追加で登録できるようになった。薬局側は1割負担を適用したり、追加登録を確認後に2割分の差額を返還したりして対応する。

抗てんかん薬は、毎日飲み続けることで発作を抑制できる。特にカルバマゼピンとバルプロ酸ナトリウムの2種類の入手が難しくなり、患者らでつくる日

抗てんかん薬 複数薬局登録可能に

宮城県・仙台市 今月から

本てんかん協会が2021年10月、厚生労働省に支給供給を要望する事態になった。

てんかん患者にとって深刻なのは、先発薬と後発薬の切り替えが簡単にはできないことだ。有効成分は同じでも血中濃度のわずかな変化で発作の再発や副作用が出る恐れがあり、原則として推奨されていない。

協会宮城県支部の萩原せつ子事務局長(78)は「百薬すれば仕事を続けられなくなったり、車を運転できなくなったりするのは生活への影響も大きい。状態が安定している人ばかり、別の薬

供給不足に対応

■ 医薬品の供給不足 複数の方相
シエネリック(医薬品)メーカーが相
次いで発症。後発薬の製造、出荷
の停止が相次いで一部は、医療機関
や薬局が在庫確保に動いた。22年8
にも品薄が波及した。日本製薬団体
体連合会の調査対象1万5036品目出
月末時点で調査対象4234品目が出荷
制限の対象となり、約9割を後発
薬が占めた。

に受けるのは抵抗がある」と説明する。

県支部は22年7月以降、県に支援を重ねて要請してきた。県は抗てんかん薬の薬局間での融

通に協力を呼びかけたほか、制度の運用改善に向けて厚労省と調整を続けてきた。

県精神保健推進室の橋本崇室長は「普段利用している薬局で薬が購入できない時の備えとして、少しでも患者の経済的負担や不安を減らしたい」と話す。

供給の安定化には、3年かかる見通しだ。見直し後の運用でも、薬を探し求めて薬局を回る手間がかかるという課題は残る。

萩原さんは「治療と制度は切り離せない。事態が少し前に進んだ」と一定の意義を認めた上で「供給が回復し、かかりつけの薬局が安定的に入荷してくれることが何よりも重要だ」と望んだ。

【9. 発表論文 (2022 年以降)】

- 1) Osawa S, Suzuki K, Asano E, Ukishiro K, Agari D, Kakinuma K, Kochi R, Jin K, Nakasato N, Tominaga T: Causal involvement of medial inferior frontal gyrus of non-dominant hemisphere in higher order auditory perception: a single case study. *Cortex* (in press)
- 2) Ohseto H, Soga T, Kakisaka Y, Jin K, Ukishiro K, Konomatsu K, Kubota T, Fujimori J, Nakasato N: Ictal chest discomfort in a patient with temporal lobe seizures and amygdala enlargement. *Epilepsy Behav Rep* 21: 100578, 2022
- 2) Ode R, Fujiwara K, Miyajima M, Yamakawa T, Kano M, Jin K, Nakasato N, Sawai Y, Hoshida T, Iwasaki M, Murata Y, Watanabe S, Watanabe Y, Suzuki Y, Inaji M, Kunii N, Oshino S, Khoo HM, Kishima H, Maehara T: Development of an epileptic seizure prediction algorithm using R-R intervals with self-attentive autoencoder. *Artif Life Robot*, 2022(<https://doi.org/10.1007/s10015-022-00832-0>)
- 3) Shaaban S, Kakisaka Y, Belal T, Jin K, Osawa SI, Tominaga T, Elmenshawi I, Nakasato N: Distribution of postictal slowing has an additional yield to interictal epileptiform discharge in predicting surgical outcomes in temporal lobe epilepsy. *Epilepsia Open* 7: 802-809, 2022
- 4) Kitayama C, Shimada E, Hihara H, Kanno A, Nakasato N, Imai Y, Sato A, Kawashima R, Igarashi K, Kanetaka H: Magnetoencephalographic evaluation of repaired lip sensation in patients with cleft lip. *PLoS One* 17: e0274405, 2022
- 5) Kakinuma K, Osawa SI, Hosokawa H, Oyafuso M, Ota S, Kobayashi E, Kawakami N, Ukishiro K, Jin K, Ishida M, Sato T, Sakamoto M, Niizuma K, Tominaga T, Nakasato N, Suzuki K: Determination of language areas in patients with epilepsy using the super-selective Wada test. *IBRO Neurosci Rep* 13: 156-163, 2022
- 6) Shimada E, Hihara H, Kitayama C, Kanno A, Kawashima R, Sato A, Imai Y, Nakasato N, Igarashi K, Kanetaka H: Somatosensory evoked magnetic fields induced by electrical palate stimulation in patients with unilateral cleft lip and palate after palatoplasty. *Neurosci Res* 184: 30-37, 2022
- 7) Jin K, Obara T, Hirano K, Hirai D, Kiuchi M, Tanaka T, Nakasato N: Prescription trends in anti-seizure medications for adult patients with epilepsy in Japan: A retrospective cohort study using the database of health insurance claims between 2015 and 2019. *Epilepsy Behav* 134: 108841, 2022
- 8) Ogawa M, Fujikawa M, Tasaki K, Jin K, Kakisaka Y, Nakasato N: Development and validation of the Japanese version of the Epilepsy Stigma Scale in adults with epilepsy. *Epilepsy Behav* 134: 108832, 2022
- 9) Sakamoto M, Jin K, Kitazawa Y, Kakisaka Y, Nakasato N: Abnormal heart rate variability during non-REM sleep and postictal generalized EEG suppression in focal epilepsy. *Clin Neurophysiol* 140: 40-44, 2022
- 10) Kuroda N, Suzuki A, Ozawa K, Nagai N, Okuyama Y, Koshiishi K, Yamada M, Raita Y, Kakisaka Y, Nakasato N, Kikukawa M: Educational approaches that enhance online clinical clerkship during the COVID-19 pandemic. *Intern Med* 61: 2431-2440, 2022

- 11) Kuroda N, Kubota T, Horinouchi T, Ikegaya N, Kitazawa Y, Kodama S, Kuramochi I, Matsubara T, Nagino N, Neshige S, Soga T, Takayama Y, Sone D; IMPACT-J EPILEPSY (In-depth Multicenter analysis during Pandemic of Covid19 Throughout Japan for Epilepsy practice) study group, Kanemoto K, Ikeda A, Terada K, Goji H, Ohara S, Hagiwara K, Kamada T, Iida K, Ishikawa N, Shiraishi H, Iwata O, Sugano H, Iimura Y, Higashi T, Hosoyama H, Hanaya R, Shimotake A, Kikuchi T, Yoshida T, Shigeto H, Yokoyama J, Mukaino T, Kato M, Sekimoto M, Mizobuchi M, Aburakawa Y, Iwasaki M, Nakagawa E, Iwata T, Tokumoto K, Nishida T, Takahashi Y, Kikuchi K, Matsuura R, Hamano SI, Fujimoto A, Enoki H, Tomoto K, Watanabe M, Takubo Y, Fukuchi T, Nakamoto H, Kubota Y, Kunii N, Shiota Y, Ishikawa E, Nakasato N, Maehara T, Inaji M, Takagi S, Enokizono T, Masuda Y, Hayashi T: Impact of COVID-19 pandemic on epilepsy care in Japan: A national-level multicenter retrospective cohort study. *Epilepsia Open* 7: 431-441, 2022
- 12) Shimada E, Kanetaka H, Hihara H, Kanno A, Kawashima R, Nakasato N, Igarashi K: Somatosensory evoked magnetic fields caused by mechanical stimulation of the periodontal ligaments. *Heliyon* 8: e09464, 2022
- 13) Kanno A, Nakasato N, Oogane M, Fujiwara K, Nakano T, Arimoto T, Matsuzaki H, Ando Y: Scalp attached tangential magnetoencephalography using tunnel magneto-resistive sensors. *Sci Rep* 12: 6106, 2022
- 14) Ukishiro K, Osawa SI, Iwasaki M, Kakisaka Y, Jin K, Uematsu M, Yamamoto T, Tominaga T, Nakasato N: Age-related recovery of daily living activity after one-stage complete corpus callosotomy: a retrospective analysis of 41 cases. *Neurosurgery* 90: 547-551, 2022
- 15) Inoue Y, Hamano SI, Hayashi M, Sakuma H, Hirose S, Ishii A, Honda R, Ikeda A, Imai K, Jin K, Kada A, Kakita A, Kato M, Kawai K, Kawakami T, Kobayashi K, Matsuishi T, Matsuo T, Nabatame S, Okamoto N, Ito S, Okumura A, Saito A, Shiraishi H, Shirozu H, Saito T, Sugano H, Takahashi Y, Yamamoto H, Fukuyama T, Kuki I: Burden of seizures and comorbidities in patients with epilepsy: a survey based on the tertiary hospital-based Epilepsy Syndrome Registry in Japan. *Epileptic Disord* 24: 82-94, 2022
- 16) Tatum WO, Mani J, Jin K, Halford JJ, Gloss D, Fahoum F, Maillard L, Mothersill I, Beniczky S: Minimum standards for inpatient long-term video-EEG monitoring: A clinical practice guideline of the international league against epilepsy and international federation of clinical neurophysiology. *Clin Neurophysiol* 134: 111-128, 2022
- 17) Tatum WO, Mani J, Jin K, Halford JJ, Gloss D, Fahoum F, Maillard L, Mothersill I, Beniczky S: Minimum standards for inpatient long-term video-electroencephalographic monitoring: A clinical practice guideline of the International League Against Epilepsy and International Federation of Clinical Neurophysiology. *Epilepsia* 63: 290-315, 2022
